



11月号

ここは  
学習の場  
そして 憩いの場  
給食で  
わかる学習で  
心の通う奉仕活動で  
今日も  
「ふれあいの森」から  
羽根っ子の豊かな心が  
生まれている。

昭和59年11月1日

編集/発行

岡崎市教育委員会



(「ふれあいの森」での楽しい給食—羽根小)

## — 教育随想 —

## しつけ

鈴木 修

スポーツ三つの楽しみというのがある。その一、そのスポーツそのものの快感である。

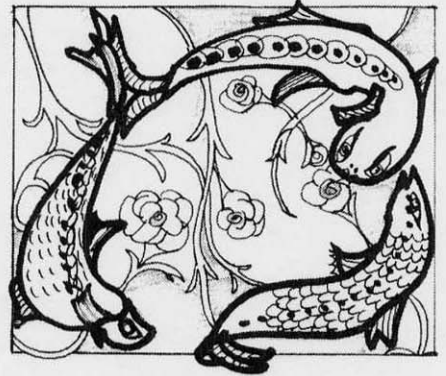
テニスを相当やったけれども、時に何とも素晴らしい球が飛んでいくことがある。その時の手応え、感じ。それはもう、まさに快感である。

ゴルフを始めたけれども、同じである。下手くそでも、一発会心のショットが出ることがある。その一発の味は、もうとても忘れられるものではない。

その二、勝ったり負けたりすることで、勝った気分はもちろん格別だが、負けつぶりの良い負けは、また別の味がある。

いずれにしても、勝ち負け無視のスポーツは、愉しみ半減の半減である。さて、その三。仲間と集まってやる楽しさである。

とにかく一人ではおもしろくない。今



日は練習だといっても、一人でやるより、仲間が集まった方が楽しい。

チームをつくってやるスポーツはもちろんだが、いわゆる個人競技といわれる種目でも、そこには仲間があり、人間と人間の触れ合いがある。

ぼくは長い間学校の先生をやった。その間にたくさんさんのスポーツをやる生徒に接してきた。進歩向上し、中心選手として育っていく者もあるし、また、途中でやめていく生徒もいる。それらの生徒と話をしたり、その行動を見て、結局そのスポーツの中に楽しさを、(それは常時意識しているものではないにしても)心

のどこかに楽しさ、気分の良さを体得しているかないか、これがその分かれ道であると確信した。この生徒に将来のためだからなどというのはほとんど効果がない。少々のききめがあったとしても、

一週間はとでもたない。要は楽しいからやる快感があるからやる、苦しい練習の中からでも、そこに何らかの良さを感じとるからやることである。人は、向上した後、自らその向上の喜びを味わうと、さらに向上していくのである。

「楽しいからやる」は「ためになるからやる」より強い。これはスポーツに限ったことではない。職業でも仕事でも、その中に楽しさ、良さを感じ取っているのは強い。

楽しさの中味は、人間の伸長とともに種々展開されていくけれども、最もたいせつなことは、特に幼児期、青少年時代に、人間として大切なこと、人生に対して大事なことを、それをやることに喜びを感じさせることである。それは強いから生涯続く。生涯向上の基礎づくりである。ぼくはこれをしつけという。成人したら、自分で自分をしつけることだと思おう。

おはようを言いなさいと説くよりも、おはようを交わす気持ち良さを覚えさせること、努力せよと迫るよりも、努力向上の喜びを実感させることである。世の中、どうも、特に知的レベルの高い人ほど、とかく理屈が多すぎる。もし、なければ幸いである。

(前城西高校校長)



甘言苦言

## 研究会



## 二つの研究会

県教育センター教育研究室長

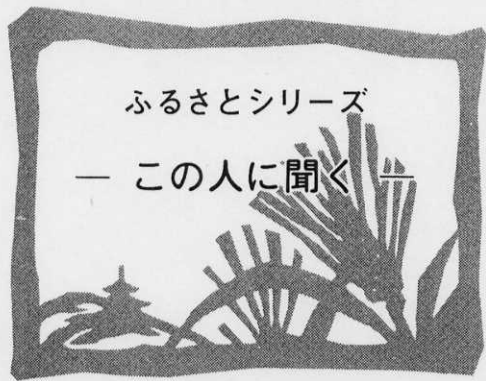
鈴木 聡一

「日本のふる里、大和の国の中学校は、世間並みに荒れ、時々便所から『煙』が立ちのぼっています。私の音楽の授業は心身ともに疲れている生徒に『静かに休みなさい』と、音楽室から抜け出ないようにすることで精一ぱい。混声合唱など、考えも及びませぬ。」

「ぼくはぼくなり一生涯命やっただけです。生徒もよくやってくれました。」前者は、協議会で提案した女子教員のことば。後者は、文化会館のステージでピアノを弾き、しゃべりまくり、生徒をおだて、茶化し、生徒はしらけ、見ていて何とも不愉快な研究授業をした男子教員の反省のことばである。

前年、同じ研究会の全国大会を岡崎でやった。

「まず、生徒たちの姿に驚いた。一人として髪の長い者はいない。ボタンもホックもはずれていない。つっぱりを見



# バレエ一筋

榎原圭以好 氏

久後崎町にある榎原圭以好アートバレエ工岡崎教室を訪ねる。タイトを着、バレエシューズをはいた女生徒十五、六人が、一方の壁全面に張られた姿見を見ながら、手すりにつかまって、熱心に練習をしていた。指導にお忙しい先生に、バレエを始めた動機について、まずおうかがいする。

「三歳のときから日本舞踊をやりました。バレエとの結びつきは、小学校四年生のとき。担任の先生が教育熱心で、モダンな方だったのでしよう。学芸会でバレエを取り入れられ、私にバレエの役を与えてくださいました。その時、

バレエの先生を招かれて指導していただきました。このことが、後の私に大きな影響を与えたと思います。」

以来、バレエのとりこになった先生は、中学・高校へと進むにしたがって、バレエの人生・生活を夢みる人となった。高校卒業と同時に、東京で一年間バレエの勉強をされた。その後、ソ連やアメリカまたインドへもしばしば足を運ばれて、今もなお、自分の勉強を積み重ねてみえる。体が弱かったこともあって、三歳のときから日本舞踊を勧められた両親や、学校でバレエをやることなど思いもつかなかつた当時に、バレエを教えてくれた担任の先生との出会いが、先生の性格、好みにも合って、今日をつくりあげたようだ。出会い、運命的なことにふれる中で、

「子どものころに、家庭でも学校でも、(なかなか難しいこと)でしようが、いろいろな体験をさせることは、その子の持つ長所や隠れた才能を引き出すのに大切なことではないでしようか。」と、しみじみ過ぎ去つた幼いころを振り返りながら話された。

指導する時に心がけてみえることをお聞きすると、

「上達の速い子、遅い子、厳しくしてもついてくる子、こない子と様々です。それによつて指導の仕方を考えなくてはいけないと思いますが、概して、百叱るよりも一つ褒める方が上手になるような気がします。いろいろ指導したいことがあります、いちばん指導し

たいところを一つ取りあげて、ここを直すともっとすばらしくなりますよ、と言うようにしています。」

と話された。また、  
「飛び抜けて上手な子をつくるよりは、落ちこぼれをつくらないように努力しています。上手になるだけでなく、バレエを通して思いやりや協調性のある人を育てなくてはいけないと思います。」  
と、バレエを通しての人づくりを熱く話された。将来、マイクロパスを使って海や山の子に、生のバレエを見せてあげるのが大きな願いとも。夢多き情熱の人。教室は明るく、活気に満ちていた。

芸名 榎原圭以好

岡崎市明大寺町東山十二の一  
昭和十三年三月十日生れ



つけようと思つても見つからない。整然とした音楽集会。生徒たちの感動的な歌声に涙が止まらなかつた。岡崎に中学校があつた。(本部役員談)

## 本物の研究会

西三河教育事務所指導主事

三浦 謙次

このごろ、研究授業を参観する時に、やや意地悪な見方をしている。例えば、「数学的な見方・考え方を育てる……」と主題を掲げている研究会では、殊更に正しい計算ができていないか、数字がきちんと書けているか、きれいにノートされているかなどに視点をあてる。そして、それらがきちんとできていると、何とはなしに安心し、本物の研究会であることに感激する。

行事によつて子どもが育つという研究会を開くことによつて、教師はもろろんのこと子どもも育たなければ、研究の価値がない。算数の研究会と銘打てば、主題は何であれ、子どもに算数の力をつけることが目的のはずである。「考え方はついたらけれど、計算は下手だ。」などという言いわけは、教師の勝手な言い分、子どもにとつては迷惑なことであろう。子どもは問題が上手に解けたり、テストに良い点がとれてこそ満足する。

岡崎の研究は、具体的、実践的であると評価が高い。高邁な理論は学者先生にお任せし着実に子どもを育てていきたい。



# 文学に見る岡崎

# 岡崎再見

49

岡崎という町を表するに、様々な形容詞が用いられる。「歴史と文化」、「福祉と教育」、「豊かな自然」等々。しかし、未だ、文学に関わる岡崎の名を耳にしない。家康というイメージの強すぎるあまり、歴史の華々しい舞台とはなっても、文学の題材になりにくい土地柄なのであるか。

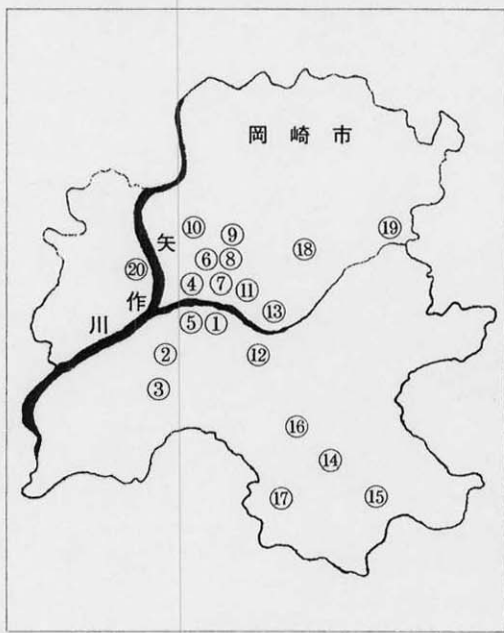
今回、この特集を組むにあたり、それが大きな誤解であり、偏見であることを知った。郷土の俳人、倉橋青村は、

岡崎は住みよき町や家康忌

と岡崎を詠んだ。また、尾崎士郎は「人生劇場」で、

「城下町というものは妙な落ちつきをもっているものである。(三州岡崎は徳川家康の父祖の代からつづく城下町であるだけに、ながい伝統のふるめかきさが、町のすみずみまでにじみこんでいる)」と描いている。岡崎を描いた文学作品の多彩さに驚くとともに、いずれの作品にも岡崎を心から慈しむ思いが脈々と流れていることに感動する。

私たちが日ごろ忘れていた文学にスポットを当て、文学を通して、ふるさと岡崎を今一度見直す機会としたい。



大正初期の岡崎中学

## ② (戸崎町)

中学は、駅から街にはいる街道の中途にあつて、門の前を電車が通つてゐた。(略) 校庭をめぐる塀の四周は眼もはるかな麦畑で、ゆるやかな街道が朝の陽ざしに白く輝いてゐる層を描いて眼もはるかにつづいてゐる桑畑の向こうに矢作川の鉄橋がかんでゐた。

尾崎士郎「厭世立志伝」

## ③ (国鉄・岡崎駅)

東京へ帰つたら何かいいものを送つてやろと息子に約束した父は岡崎まで走る電車のなかで、千代夫人にもう三十円ずつ送金を多くして、豊かに暮らさせてやろうとも思ふのであった。

石川達三「人生画帖」



旧東海道・藤川の松並木

④〔岡崎公園・岡崎城〕

雨がばらついている中を、岡崎公園にゆく。公園の上で弁当を食べる。たのしい。雨がひどくなつてきたので、茶店に雨やどりする。小ぶりのときに更生まで出てゆく。明日東京へ持つてゆくみやげを買った。

新美南吉の日記より  
撫琴子に伴はれて岡崎城に遊ぶ  
天主閣の廢虚春草  
離々たり感懐三十余星霜

帯をなす矢作の東うららかに

青葉に包む岡崎の城

伊藤左千夫

佐緑紅緑

⑤〔明大寺町〕

燈明のうつりて寒き写真かな

荒川同業

⑥〔六供町〕

岡崎の春の祭にあひしかば

とよむ花火の音にめざめし  
佐藤佐太郎

⑦〔伝馬町〕

熟田は人々取込候へば封のま、にて岡崎駅(伝馬町の旅館)まで持参候而、窓の破れより風吹入、戸の透間より月もりか、れる、いの油のなまぐさきよこれ行燈の前に而御文先聞く。泪紙面にそ、く。

松尾芭蕉「曲水宛書簡」

湯婆踏んで淡雪かむや今土用

正岡子規

⑧〔花崗町(石屋町)〕

石屋町 歳深く来て 晴れすがし。

撃・槌ひびく 賑ひに逢ふ

石屋町、ゆくりなく来ぬ。撃の音……。

地蔵は今も作られにける

呼柳 稔

⑨〔門前町〕

随念寺は岡崎の名刹  
で、家康が祖父と叔母の追善のために建てたとき。壮重な建築だった。墓地は本堂から続く台地で、登るにつれて冬の陽をうけた市街地の眺めが爽かだった。

秋元松代「氷の階段」

⑩〔井田町〕

織田勢八千が街道筋を押し来るといふ報

告があつたので、城外井田村に迎えて戦おうということになつたが、その前に幼君に暇乞いして行こうというのである。

海音寺潮五郎「三河武士」

⑪〔欠町〕

かけといふ処にすれば岡崎人都築大成、幸田龍臣むかへり、ともなひて此の里なる桔梗屋といふにやどる。夜ふくるまでさけ酌みてかたりののしる。

香川景樹「中空の日記」

⑫〔美合町〕

美合町に移り住んだのは去年の五月半ばであつた。山綱川とは六、七百米の近きである。(中略)山綱川の生田蛭は明滅の時間が大変に長い。成程ひふうと数えてみると中には一明滅でゆっくり二十を数えるものがある。

稲石正逸「早蕨」昭和二十七年十月号

⑬〔大平町〕

岡の江ゆふせん寺を打ちこへて、大平川にいたる。  
岸に生ふ芹のあをみに小鴨まで

水にひたれる大平の川  
十返舎一九「東海道中膝栗毛」

⑭〔山中町〕

おぼつかなの山中になくしかの

たづきもしらぬ声のきこゆる  
「富士紀行」

⑮〔本宿町・法蔵寺〕

たのむぞよ我迷はずなるの世に  
出でて生るる寺とこそさき

西行法師

⑯〔藤川町〕

かくて藤川にいたる。棒晶の茶屋、軒ごとに生香をつるし、大平皿鉢みせさきにならべたてて旅人のあしをとどむ。

弥次郎兵衛

ゆで蛸のむらさいろは軒毎に

ぶらりとさがる藤川の宿  
十返舎一九「東海道中膝栗毛」

⑰〔桑谷町〕

雨山に来つ、なければや

声の色さへぬれ渡るらん  
藤原為忠「夫木和歌抄」

⑱〔高隆寺町〕

雑木材麿寺の道を蔽ひたり

はぜの紅葉の夕影に浮く  
都築康二「ほそ道を行く」

⑲〔蓬生町〕

蓬生の郷ハ乙川の水上にして切越のひとつ家より左に入る山ハ筑手につ、き高き所を小不一と呼ぶ柿の黄葉木の間にうつつろひ鹿のこゑ暮ぬうちより聞えて夜はことさらに澄ワた里ぬ  
鶴田卓池「青々処句集」

⑳〔矢作町〕

去る程に十一月二十五日の卯刻に、新田左兵衛督義貞、脇屋右衛門佐義助、六万余騎にて矢作河に推寄せ、敵の陣を見渡せば其の勢二三十万騎もあるらんと寛敷くて、自河東、橋の上下三十余町に打囲んで雲霞の如くにうち満ちたり  
「太平記」

## 教育日々



ハックシヨーン・ズルー

六名小 島田智恵子

体育で、表現運動をやった。  
「ちようになつて台を越そう。」  
と呼び掛けた。男の子の方がすぐその気になりきった。中でも、  
T君は、もう完全にちようであつた。みんなの前でやつてもら  
う。

「すごい。なりきつてるね。」

という声と同時に、級友の拍手  
がわいた。

すると、T君が、

「先生、今からしゃばん玉つく  
るよ。フウーツ。」

と言いだした。子どもたちは最  
初きよんとししていたが、少し  
経つと、各々が、丸くなった。  
が、みんながすごい勢いで走る  
ので、

「そんなに走つたら、こわれな  
い。」

と私が言うと、少しずつスピー  
ドを考え始めた。

「あつ、屋根にあたつた。」

「パチン。」

と、声を出して倒れていく子が  
ほとんどだった。が、気づくと、  
S君はポケットとして、つつ立つ  
ていた。私は、みんなと当然同  
じことをするだろうと思つてい  
たのだが。

「あれ、しゃばん玉がわれちゃ  
つたよ。」

と、もう一度言うのと、あわてて  
寝ころんだ。次のおもちの時も、  
他の子は、私のきねをつく動作  
に合わせて、伸びたり縮んだり  
しているのだが、S君は下を向  
いたまま恥ずかしそうにしていた。  
そして、最後、

「ねばねばしたものを考えよう。」

と、班で考えることにした。S  
君のことは心配であつたが、思  
い切つて班の子にまかせた。

発表の時間になつた。

「先生、一番にやらせて。」

と、あのS君の班が言つてきた。  
みんな自信満々。S君もここに  
こ顔。題は鼻水だつた。女子二  
人で鼻の穴の形をつくり、  
「ハックシヨーン。」

の声とともに、向こう側からS  
君ともう一人の子が、

「ズルー。」

と言つて、うれしそうに出てき  
た。先ほどの下向きの顔はうそ  
のようだ。

「S君。よかつたよ。」

「先生、S君にね、みんな同じ  
ことやるから、はずかしくな  
いよ、つてみんなで言つたん  
だ。」

素晴らしき

サッカー野郎たち

岩津中 中垣 明道

砂煙の中で必死にボールを追  
うR。Rの顔は汗と泥。苦しそ  
うだ。だが、確かにその目は輝  
いている。男らしく、頼もしい  
Rの姿が、今、私の目にはつき  
りと映っている。

Rは毎日ボールを追つた。

「よしつ。これならいける。」

新チーム初の練習試合。相手  
は強豪K中である。結果は大敗  
であつた。負けることの大嫌  
いな私であるが、なぜかさわか  
な気分だつたのは、Rを始めと  
する子どもたちの必死な顔にあ  
つたのかも知れない。

三無主義とか、しらけ世代と

か、今の子どもたちを評する言  
葉は無味乾燥なものが多い。現  
場の教師として、私はそれらの  
言葉を肯定もしないし、否定も  
しない。だが、はつきりと言え  
るのは、必死になつてボールを  
追う子どもたちには、決してそ  
れらの言葉はあてはまらないと  
いうことだ。瞬間の一場面一場  
面が、まさに彼らのエネルギー  
そのものなのだ。

だれが何と言おうと、素晴ら  
しきサッカー野郎たち。下手で  
も、どんなに私にどなられても、  
決してボールを離さないサッカ  
ー野郎たち。だからこそ、私は  
彼らとともに勝利の美酒（ジュ  
ース）を味わいたいのである。

「先生。たまには練習休みにし  
よう。」

猫なで声でRが言った。足跡  
だけが残るグラウンドで、なぜか  
私はほつとした気持ちになつた。



「よしつ。タツクル。」

いつになく興奮している私であ  
つた。

Rは生活態度が良い生徒とは  
言い難い。部活動にも来たり来  
なかつたりの、いわゆる幽霊部  
員であつた。そのRが、毎日夜  
遅くまで、近くの公園でボール  
を蹴っていることを知り、私は  
大きなショックを受けた。

「あいつはサッカーが好きなん  
だ。」

雨中の市長杯が終わり、新チ  
ーム結成。

「お前、今日からバックやれ。」

その代わり、一日でも休んだ  
ら、もう練習に来るな。」

たぶんだめだろう。私にとつて  
は不利な大ばくちであつた。と  
ころが、私の予想に反し（？）、



第十二回 教育文化賞

岸田・後藤両氏と三団体

岡崎市の教育・文化振興に貢献し、優れた業績を残した個人及び団体に贈られる「岡崎市教育文化賞」は、次の二氏と三団体に決まった。

(個人)

▽岸田達夫氏(61歳) 岡崎女子高校講師 岡崎市欠町東通六・三十年間にわたる教え子とのほかによる心の交流活動

昭和十八年、三島国民学校を振り出しに、今年三月三島小学校長を最後に退職するまでの四十年間、教育ひと筋に情熱を注ぎ、国語教育、学校経営に業績を残した。特に三十年前からは毎年、教え子に誕生祝いのはがきを送って励まし、その数は三万通にも及んでいる。

【寄贈刊行物・資料等】  
◆昭和五十九年度 この一年

◆探鳥ガイド西三河 西三河野鳥の会  
A5 変形判 一一〇ページ  
◆家康と伊賀越えの危険 三重県 川崎文隆  
A6 一六四ページ

◆読書の記録 校務主任会  
B5 孔版印刷

◆クラシック音楽の普及・向上のための演奏活動  
▽岡崎地方史研究会  
・岡崎地方の歴史文化資料の発掘と研究活動  
授賞式は十一月十日、せきれいホールで行われる。記念講演は、「教育改革の動向と課題」と題して、お茶の水女子大教授河野重男氏。

▽後藤 章氏(54歳) 六ツ美北部小学校教頭 岡崎市稲熊町森下一八ノ六  
・授業に役立つ化学実験書の刊行等による理科教育の推進活動  
昭和三十三年に「小学校化学実験の要点と実際」を出版して以来、「原色化学実験プロセス図説」など四冊を刊行。その間、論文「イオン化列の学習指導のすすめ方について」は、日本化学教育学会教育奨励賞に選ばれている。

▽城北中学校ねずみグループ  
・二十一年間にわたる学区環境美化活動  
▽岡崎フィルハーモニー管弦楽

◆ソニー理科教育優秀校に美川中学校  
本年度の「ソニー理科教育振興資金」優秀校に美川中学校が選ばれ、助成金百万円とビデオ機器一式を受けた。  
なお、優良校に広幡小学校、努力校に竜美丘、藤川、緑丘の三小学校が選ばれた。

第17回 岡崎市中学校新人体育大会

●総合成績 (水泳競技の部) 昭和59・9・9

	優勝	2位	3位	4位	5位	6位
男子	矢作	甲山	竜海	矢作北	城北	附属
女子	矢作	竜海	甲山	矢作北	岩津	葵

●個人成績 ★印は大会新記録

種目	男子			女子		
	氏名	校名	記録	氏名	校名	記録
100M 自	稲吉 保典	甲山	1'02"4	川口 信子	岩津	1'07"1
400M 自	岩口 裕	新香山	★4'40"4	清水 美江	甲山	★4'58"8
100M 平	岡田 光	矢作北	1'18"2	井田 明美	竜海	1'23"4
100M 背	鈴木 大介	矢作	1'14"0	前田満美子	竜海	1'20"8
100M バタフライ	杉山 修一	附属	1'09"0	稲垣里栄子	矢作北	★1'11"2
200M 個人メドレー	小林 篤司	葵	2'38"8	浅井寿己礼	葵	2'47"2
400M メドレーリレー		竜海中学校	4'55"0		竜海中学校	★5'15"7
400M リレー		矢作中学校	4'25"6		矢作中学校	★4'39"8

優良学校中規模校の部で、愛宕小学校が優秀校に選ばれた。表彰式は十一月三日、東京有楽町朝日ホールで行われる。  
■教育委員長に糟谷正孝氏  
矢田香子氏の任期満了(九月三十日)に伴い、十月より糟谷正孝氏が教育委員長に選任された。教育委員長職務代理者には後藤朋美氏が選ばれた。  
■FBC秋花壇県名誉大賞に細川小学校  
県下の小・中学校百三十校が参加して行われたフラワー・ブラボー・コンクール秋花壇にお

いて、細川小学校が名誉大賞第六十八号校に認定された。この賞は県大賞を連続して獲得した学校に与えられるものである。  
■よい歯の児童・生徒  
▽岡崎一 森川洋(羽根小) 熊谷晶子(城南小) 服部圭(城北中) 蜂須賀愛美(城北中)  
▽準岡崎一 石川雅裕(緑丘小) 早川里香(六名小) 梅村哲也(福岡中) 中根千明(六ツ美中)  
仲江康二(矢作南小) 奥瀬奈美(竜美丘小) 仲井光志(甲山中) 高津美弥子(福岡中)



## 道ノカヤスコヤイワ左

所在地—岡崎市岩中町

岩中町西方寺の聖観世音菩薩

は、天平時代、行基の作といわれる。伝説によると、行基がこの裏山「聖ヶ峯」山頂の大岩盤上で座禅を組み、一刀三拝して刻んだという。子安観音とか乳出し観音とか呼ばれ、靈験あらたか

で、今も信者がここを訪れる。岩中のバス停から大井野川を渡ると、岩中下の切の集落。ここから溪流沿いに数十メートル登った道端の岩の上、ナンテンの葉陰に、台座も合わせて一メートルそこそこのかわいい聖観音様が立っている。よく見ると、道標で、像の左右にはかたかなの文字が彫つてある。右カシ

わらんよということであった。上・下の切の民家はみな開放して信者を接待する。今も昔も変わらんよということであった。

●カ ッ ト 城 南 小 岡 田 浩

ノ(鍛冶)ナカイ(中井)道、左イワヤコヤスカンノ道。文字の読めない人への心づかいだろうか、かな文字に心の温まる思いがする。

「観音さんのご開帳の時だったで、今から五、六十年前かな。」近くの老人のお話だと、初めは川の左岸田道の分かれ道に建てられたものが、道路の拡張工事ですで今の所に移ったそう。岩屋観音のご開帳は十七年ごとに行われ、近郷近在から多くの信者が集まるといふ。この時には、

上・下の切の民家はみな開放して信者を接待する。今も昔も変わらんよということであった。



- \* 羅漢の世界 森山 隆平 1800  
柏書房
- \* 絵本の時代に 松居 直 1300  
大和書房
- \* 女の器量はことばしだい 広瀬久美子 980  
リオン社
- \* たたかいはいのち果てるまで 新潮社 向井 承子 1300

- \* 本田宗一郎との100時間 城山 三郎 1200  
講談社
- 戦後、すばらしいスピードで自動車産業界に進出し、世界のホンダを確立した本田宗一郎と行動を共にし綴った記録である。
- 「俺は小学校しか出ていないんだから、誰にでも平気で聞ける」と言い、若い大学生に混じって勉強をしたという。
- 創造的経営者の独特な発想力と人間哲学を学ぶことができる。

おどり・ダンス・バレエ・エアロビクスと、色々な呼び方で、老若を問わず、この種のもものが盛んである。趣味や健康のためにと。最近では美容のためというのが多いという。

女性が多いのは美への欲望が強いのか、それとも期待が大きいのか。ともあれ、平和なよき時代といえよう。

## シオア

食生活の変化はこの三十年著しい。肉・乳製品の摂取量の増加は、体位の向上を促し、欧米に劣らぬ長寿国となり、日本人の優秀さを物語るかにみえる。

しかし、近視、う歯の増加とか持久力とはいうと、どうだろう。また、子どもたちの「犬食い」を見るのも、心痛む思

「あぶないノ あぶないノ」  
児童・生徒の登下校時や通勤時に、この場面に遭遇したことはないだろうか。今年も八月までの岡崎警察署管内の交通事故概要をみると、六一十五歳で百十一人と多い。子どもの飛び出し・道路横断、自家用車運転時の一時停止・右左折など安全に心掛けたい。

菅生川原で岡崎のシンボルである「おかきざき子展」が開かれる。広い川原は色鮮やかな美術館だ。どの作品も子どもたちの創造性により、光り輝いてみえる。小さな芸術家の作品の前ではどんな名画も色あせてしまう。

— 世界にジャンプ ぼくらの心 —  
十一月。芸術の秋。